

カンムリウミスズメってどんな鳥？

カンムリウミスズメは、日本近海にだけ分布し、暖帯海域で繁殖する唯一のウミスズメの仲間です。繁殖期にだけ営巣、抱卵のため繁殖地の島に上陸します。抱卵期以外は陸から遠く離れた海上で生活しています。その生態はまだ謎に包まれています。

カンムリウミスズメの一年

伊豆諸島で繁殖するカンムリウミスズメは、1月下旬になると繁殖地周辺の海に戻ってきます。この頃、立派な冠羽を持つ美しい繁殖羽になります。繁殖期が終わる6月を迎えると、黒潮の流れに乗って太平洋沿岸を北上して行きます。長く立派だった冠羽も次第に生え変わり、全体的に淡い灰色の非繁殖羽の姿になっていきます。



カンムリウミスズメの非繁殖羽

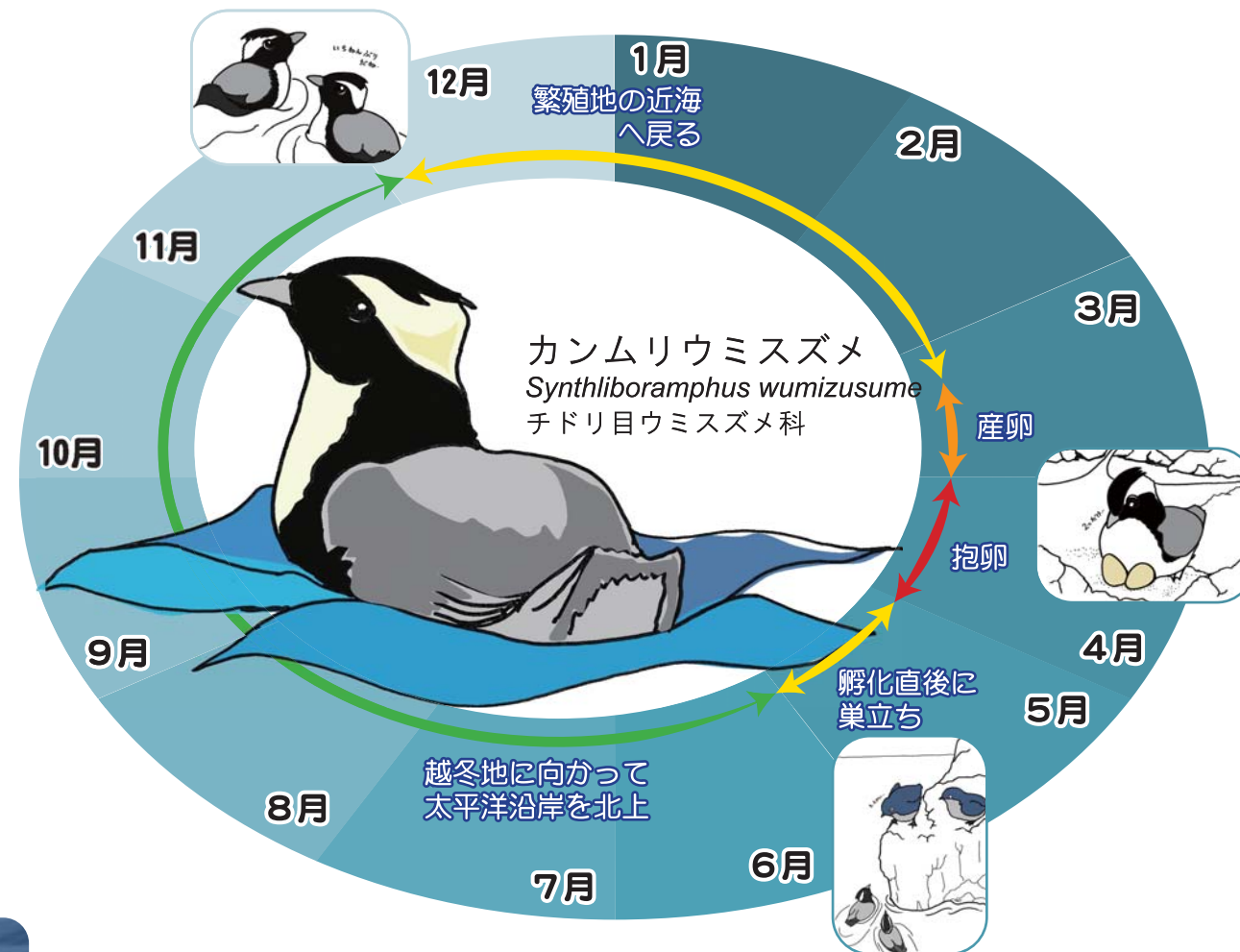


カンムリウミスズメの繁殖羽

※カンムリウミスズメがどこにいるのか全国の皆様にご協力いただいていた目撃情報を集めています。

地図の赤い印は繁殖期に、青い印は非繁殖期に確認された地点です。目撃情報からカンムリウミスズメの移動の様子が見えてきました。詳しい移動の経路は、近年ジオロケーターを使った調査でだんだんと分かってきています。

(目撃情報の収集事業は2016年に終了しました)



保護指定：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) (IUCNレッドリスト)
絶滅危惧Ⅱ類 (VU) (環境省レッドリスト)
国指定天然記念物

大きさ：全長24cm
重さ：約160g
鳴き声：「チュイ、チュイ」
「ジュリリ」など多様

採餌方法：非常に泳ぎが得意で、翼を羽ばたかせて潜水し、魚やプランクトンなどの小動物を捕まえて食べます。

カンムリウミスズメの子育て

基本的に一夫一妻で、多くは無人島の崖や急な斜面の岩と岩の隙間、木の根元、地面のくぼ地などに巣を作ります。

3月中旬から下旬に卵を1~2個産み、雌雄交代で約1ヶ月間抱卵します。

ヒナはふ化すると、1~2日のうちに親鳥の声に導かれて海に向かいます。親鳥からの給餌は洋上で行われます。



カンムリウミスズメの親子

カンムリウミスズメを取り巻く状況

カンムリウミスズメは、推定個体数が5,000羽から10,000羽と極めて少なく、ウミスズメの仲間でも最も絶滅が心配されている種の1つです。

減少した主な要因

- ①繁殖地に、釣人が放置したゴミやまき餌にカラス類が誘引されたり、人の移動と共にドブネズミが入り込んだりし、捕食者となっています。卵やヒナだけでなく成鳥も襲われることがあります。
- ②近年の釣りブームや海洋レジャーの拡大により繁殖地に人が立ち入るようになり、卵やヒナが無造作に踏まれたり、攪乱によって親鳥が巣を放棄したりといった問題が生じています。
- ③刺し網による混獲や油汚染による死亡例が報告されています。



割られてしまった卵

カンムリウミスズメの保護

当会は、カンムリウミスズメの保護を進めるため、伊豆諸島を中心に調査や普及教育活動を行なっています。

調査結果を元に、関係団体に繁殖地を保護区に指定して保全するように働きかけています。2010年には大野原島、祇苗島が新たに国指定鳥獣保護区に指定され、新たにカンムリウミスズメの繁殖地が守られました。



カンムリウミスズメの繁殖地